

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371300203		
法人名	社会福祉法人 共生会		
事業所名	グループホーム アミーチ		
所在地	岩手県二戸市似鳥字上平15-1		
自己評価作成日	平成21年6月1日	評価結果市町村受理日	平成21年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371300203&amp;SCD=370">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371300203&amp;SCD=370</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号
訪問調査日	平成21年6月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、ゆとりのある生活を送れるよう側面から支援している。
------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりの価値観と人権の尊重に最も留意するケアに努めている。常に前向きなケアを考え実践する。例えば身体拘束をしなくとも良いケア、オムツを使わないケア、つまり、そのことをしなくとも良いケアを工夫していくこと。</li> <li>・災害に備えての地域災害協力隊が組織、結成されており、地域ぐるみの取り組みがある。</li> <li>・同一法人の特別養護老人ホームとの連携があらゆる面で強力である。重度化や終末期に向けての取り組み、デイサービス利用者との交流などは特記できる。</li> </ul>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営方針を理念とし、ホーム内の見やすい場所に掲示しており、日々職員が意識して実践に努めている。	昨年度の外部評価で指摘された事柄を職員で話し合ったが、従来通りで良いという結論で、運営方針を理念としホーム内に掲示し、職員間の共有を図り、ケアの実践にあたっている。	事業所が目指している基本的な考え方を端的な文言で表現し、利用者、家族、職員とも理解し共有できるものにしていく取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小・中学校からの招待で運動会や学習発表会などに参加し交流を深めている。又、市の催し物にも積極的に出掛けている。	地域災害協力隊の構成員として職員も参加している。地元の小・中学校には利用者が作った雑巾を贈り、日頃のボランティアや諸行事への招待へ感謝している。また、地域の人々との言葉も交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	冬期に利用者が作成した雑巾を近隣の小・中学校に寄贈している。利用者と一緒に訪問し、生徒に手渡し、涙ぐむ利用者も居る。縫い物は得意な方が多いので雑巾作りは続けていきたい。誰かの為に何かをしたいという気持ちを失わないよう支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは幅広い立場の人で構成されている。ホーム内の行事や評価への取り組み状況を報告し、話し合いの機会を設けて、サービス向上に繋げるよう活かしている。	2ヶ月に1回は開催されている。その中で地域や家族からの意向や意見について直接的にホーム側に言えないことでも(会議メンバーから)代弁いただき、地域や家族とホームとの接着剤的な働きにより、ホーム運営に資している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所での課題について(災害等)市の関係職員に実績を積極的に伝え、協議し取り組んでいる。	法人施設長が、グループホーム協会県北ブロック支部長であることから、グループホーム全体に対する課題と共に、アミーチについての状況も含め、市の担当者との連携は積極的に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束廃止委員会を設置し、月1回話し合いの機会を設けている。施設内外の研修会にも積極的に参加している。現在、身体拘束は行っていない。	身体拘束については特例を認めない。身体拘束をしなくとも良いケアを考えることを第一に取り組むこと、をモットーとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で倫理委員会を設け、地域の方に2ヶ月に1回来てもらい、利用者から悩みや苦情などを聞く機会を設けている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利譲渡についての支援に関することを学び、家族からの相談があった際は受け答えしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に担当ケアマネより情報を得たり、契約時の説明の際、時間を十分にとり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情処理の担当者を設け、又、苦情処理箱を設置している。法人の倫理委員(5名)が、二ヶ月毎に利用者より意見等を聞き、運営に反映している。又、家族との連絡を密にしており、家族の意見を聞きだしたり、話しやすいような環境作りに努め、意見等あった際はすぐに対応している。	運営推進会議、家族との面会時、家族アンケートなどで、意見や要望の把握に努めており、可能な限り実現できるように対応している。利用者の主たる担当者を明らかにするため職員の写真の掲示も要望への対応である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの際に管理者も出席し、何でも話しやすい環境である。月1回の運営会議等でも意見を聞いている。緊急の場合はその都度、聞き判断している。	月1回のアミーチ会議や毎日の申し送りなどで意見や提案をする。特にアミーチ会議は管理者も入った会議で、休みの職員は前もって要望等を出しておくことにより、話し合いの結果は運営に反映される様にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見等をその都度聞き、取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各事業所が持ち回りで研修を行っている。研修には積極的に参加させ、内部研修で講師を務めるなど、研修に参加する機会を多くして意識や知識を高め合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北地区のグループホーム協議会で行なっている研修や交流会に参加している。近隣のグループホームにも積極的に見学に行き交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネが利用者と関わりを多くもち、相談から利用に至るまで対応している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネが情報や入所申し込み時に相談を良く聞き対応する事を心がけている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を聞きながら対応しているが、他のサービスも受けた上でグループホームに相談に来ている方が多い。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩として尊敬し、生活のあらゆる場面(畑仕事・料理・洗濯など家事全般)を学び支えあう関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診は家族が行う事を原則としている為、家族は日常の様子を把握し理解頂いている。家族には職員では出来ない支援があると常に伝えている。又、些細な事でも家族へ報告し相談している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の特養のショートステイやデイサービスを経てきた利用者が殆どで、利用者と職員は顔なじみの関係が出来ている。デイサービス利用の方が面会に来る時もある。	利用者の多くは、同一法人のデイサービスやショートステイを利用してきており、ここで馴染んだ人たちとの交流が継続されている。毎月、特養ホームを訪れる理美容業者さんを利用したりすることも、関係継続の場である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動やアクティビティなどで利用者同士が声を掛け合っている。孤立しがちな利用者には得意な事を他の利用者で行えるよう支援している。利用者間のトラブルや人間関係は観察を行い、職員同士が情報を密にして対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所になった利用者には、家族や利用者と会う機会が多い為、声掛けや挨拶を忘れずに行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人が話したことを書きとめている。困難な場合でも態度や行動を観察し把握するよう努めている。	毎日の生活を通して、利用者の言動から職員が気付いたことを書きとめ、申し送りノートに記録し、利用者一人ひとりの思いや意向を共有しながら支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者・担当ケアマネの協力を得て、今までの生活を把握し記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や職員同士の情報交換で、現在の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族が希望しているケアを組み込み、ケアプランを作成している。又、運営会議の際、全職員の意見を聞き、見直し等を行ったり、その都度話し合っている。作成後は家族に説明し了承のサインを貰っている。	面会時の家族の要望、利用者本人の日常生活の観察、運営推進会議の中での地域からの要望などいろいろな情報を加味し、プランの素案づくりの上、全職員で話し合って作成にあっている。原則3ヶ月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・夜間日誌を使用し次の勤務者へ申し送りを行なっている。連絡ノートを活用し、グループホーム内での細かい情報を全職員が共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は原則として家族が行う事になっているが家族の都合がつかない場合等はヘルパー対応で行い、送迎は事業所の車で対応している。月に一度、なじみの美容院を利用する方もおり、送迎をし喜ばれている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小・中学校の運動会や学習発表会に招待され、参加している。又、年に2回の法人全体での避難訓練の際、地域の消防団の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医との関係を切ることなく、継続的に医療が受けられるよう支援している。やむを得ず転院が必要な場合は紹介状を頂くなど、医療がスムーズに行えるよう支援している。	かかりつけ医は利用者と家族の意向によっている。定期診察のための通院支援は家族によるが、家族の都合が悪く、通院支援の依頼があった時は、ホームに連絡してもらい、ヘルパーによって支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師に、利用者の情報提供票と内服薬内容・かかりつけ医を報告し、利用者の特変があった場合はすぐに連絡し、指示を仰げるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の県立二戸病院と締結し、担当医と相談や情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族にはアンケート調査等で意向を確認しながら、併設の特養との連携で支援している。	重度化や終末期についての支援は、同一法人の特養ホーム サントピアの全面的な支援を受けた対応の中で、利用者や家族の意向に沿うように努めていくことを職員間でも共有して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各マニュアルがあり職員が周知している。又、年1回の救命救急講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、又、法人全体で年2回地域の消防団の協力を得て、災害等の非難訓練を行なっている。	地域消防団・小中学校PTAの消防クラブ・共生会職員の三者によって構成する地域災害協力隊の協力で年2回の訓練と、ホーム独自の訓練は、いろいろな事態を想定し毎月実施しており、災害マニュアルも完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の声掛け等にも注意を払っている。又、法人では個人情報委員会を設置し、プライバシーの保護に努めている。	最も留意していることは、利用者一人ひとりの自尊心を傷つけないこと、価値観を大事にすることであり、それが理念にも通じ、ケアの基本と職員全員が心得るように努めている。個人記録の保管もきちんとやっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を行なうにも利用者さんに聞き、気持ちを素直に表せるよう、聞く態度や表情に気をつけて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんに意見を聞き、出来る範囲で希望を叶えている。又、個々のペースに合わせ、待つことを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、市内の理容協会の方々が散髪をしてくれる。近隣の美容院の方が多く、以前から利用しているからと毎月同じ理容師からの散髪を受けている。近所の美容院に行く方もいる。希望によりグループホーム内で髪染めを行なっている。外出や行事の際、化粧やおしゃれをしている方も多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼食は併設の特養で摂取しているが、それ以外の食事の準備・片付けは当番制で職員と一緒にいる。	日曜日以外の昼食は、併設の特養を利用しており、調査員が訪問した当日もそうであったが、利用者はみな和やかな表情で食事をしており、片付けも全員で職員と共にやっていて、朝夕の食事の場面も垣間見ることができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士の指導を得ながら、利用者全員の食事量や水分量、栄養バランス等をチェックしている。又、個々の嗜好にも出来る限り対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けと介助を実施している。特に昼食後は全職員で対応し、口腔内の状態把握をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ外しに取組んでおり、排泄間隔等を把握出来てきた。時折、間に合わない時もあるが、職員の声掛けの工夫や利用者の観察を行っている。	オムツをしなくとも良いケアを考えている。排泄パターンをチェック表で把握し、利用者一人ひとりの状況を職員が共有しながら支援にあっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳製品を毎日飲んでいる。便秘がちな利用者は水分摂取量を記録したり、レクや散歩などの運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴可能で体調不良の場合には時間をずらしたり、清拭に替えて対応している。	入浴時間帯は13時から16時30分と設定しているが、およその目安であって、これ以外でも利用者の希望に対応するよう、弾力的に取り組んでいる。入浴にあたっては、毎日のバイタルチェックによる体調管理に留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が談話室や和室など好きな所で自由に休む環境を作っている。個々の生活パターンが決まっています、本人が自由に生活出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報のファイルを作成し、常に内服薬を確認できる。通院後に内服薬が変更になった場合は、日誌記録者へ報告し次の勤務者へ申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や得意な事を事前に把握し、物や場所など利用者が自由に行なえるような環境作りをしている。手芸などの興味のあるような新しい事も提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所での買物や敷地内の散歩を利用者の希望により1日3回程度、実施している。他にも希望があった際は、その都度、散歩・ドライブ・買物等の対応をしている。	広い敷地内の散歩や、週2回の食材の買い物への同行、お盆などの折には墓参りの帰宅、これらは利用者との対話の中で聞き取ることが出来たし、実際にその様に取り組んでいる。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には1000円程度の管理をしてもらっている。買物の際、預かっているお小遣いで支払いをもらう時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際は、その都度、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の生け花が飾られ、又、中庭にも季節の花が咲くようにしている。	比較的広い共有スペースには障子のある9畳間と、その前に食堂とソファが配置された談話スペースがある。柱と天井の太い梁は美しい木目が際立ち、高い天窓からの採光も心地良く、利用者の気持ちを和らげる雰囲気をかもし出している。清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	憩いのスペース広く確保しており、十分な共有空間である。常に居場所を確認し危険は無いが、プライバシーには配慮し、利用者にとって居心地の良い環境を作る様努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具等が置いてあり、家族の写真なども飾られ、馴染みの物に囲まれて安心して過ごせるよう配慮している。	いままで愛用していた筆筒を持ち込んでいる利用者、家族の写真を飾ったり、それぞれ独自の個室づくりをしていることがうかがえる。ホーム側としては、もっともっと利用者側で馴染みの物を持ち込んでほしいと思っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせた歩行補助具を使用したり、居室・苑内にもものれん等使用し、各居室や浴室・トイレ等をわかりやすくし、迷う等あった場合は、その都度、職員で話し合い等を行っている。		